

長寿科学研究等支援事業

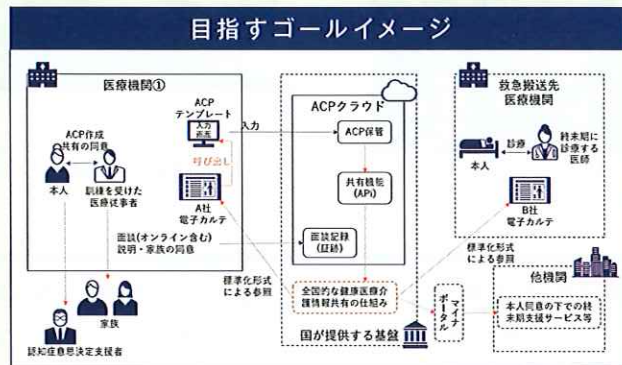
長生きを喜べる長寿社会実現研究支援

令和4年度から、財団ビジョンを実現するため、課題解決となる研究開発から本格的な社会実装まで取り組む課題解決型のプロジェクトを採択し、支援しています。

採択プロジェクト 1

アドバンス・ケア・プランニング推進のための共通ICTプラットフォーム構築 —どこで療養していても高齢者本人の意思が尊重される社会作り—

- プロジェクト代表者：三浦 久幸（国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部・部長）
- 採択分野：探索研究（2年間）
- 助成額：20,000,000円（実績）

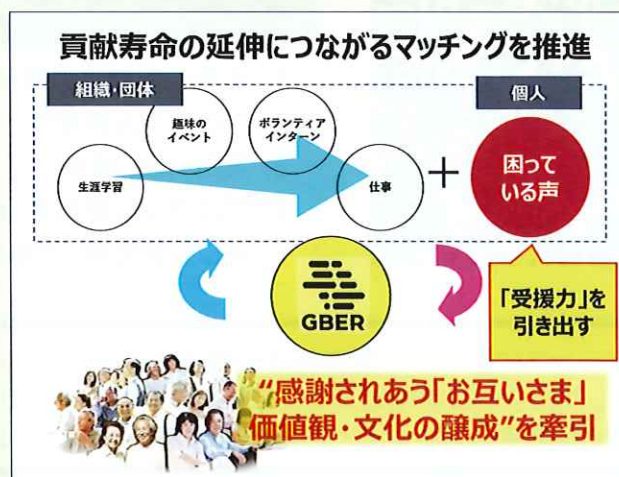


誰もが求める「自分らしく生ききる」ことができるように、本人の意思決定支援、すなわち、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の充実を推進するため、どこで療養していても本人の意向に沿った治療・ケア、緩和ケアが実践され、最期の療養場所についても本人の意向が尊重・共有されるための日本国内の共通ICTプラットフォーム構築を目指しています。

採択プロジェクト 2

貢献寿命延伸への挑戦！ ～高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装～

- プロジェクト代表者：檜山 敦（一橋大学大学院 ソーシャル・データサイエンス研究科・教授）
- 採択分野：実装研究（3年間）
- 助成額：90,000,000円（実績）



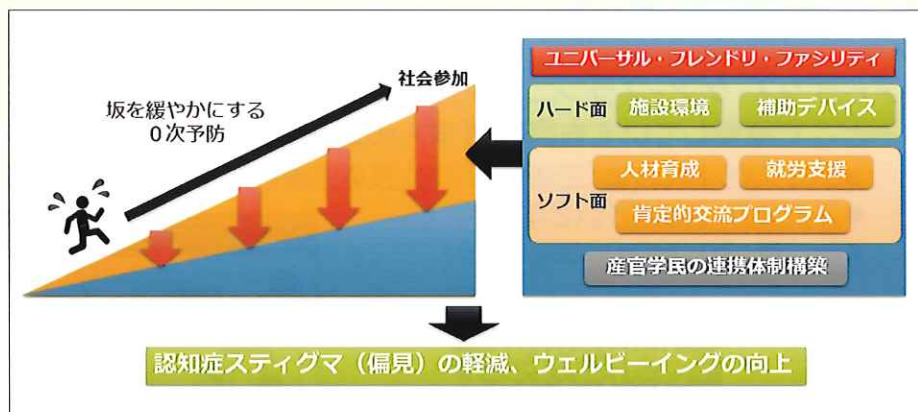
地域の中で役割や居場所を探す高齢者と、仕事やボランティア、生涯学習など様々な地域活動また、サポートを求める住民の声を有機的につなぐ情報プラットフォームとしてGBER（ジーバー）を研究開発し地域での社会実装に取り組んでいます。
本プロジェクトでは、GBERの機能を拡充し、各地域から抽出されたニーズを総合して、高齢者の活躍・貢献領域を拡大することを目指しています。

採択プロジェクト 3

ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティが認知症の人と地域住民の

社会参加向上とスティグマ軽減、ウェルビーイング向上にもたらす効果検証

- プロジェクト代表者: 斎藤 民 (国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部・部長)
- 採択分野: 探索研究 (2年間)
- 助成額: 20,000,000円 (実績)



産官学民の連携により、認知症などで社会生活機能に低下のある人々や地域住民が自然に参加したくなる施設を作り出すことで、認知症への偏見を減らし、誰もが幸福で健康に過ごせる社会を目指しています。

採択プロジェクト 4

エビデンスに基づく認知症予防プログラムの社会実装

～高齢者のQOL向上と持続可能なコミュニティ支援の確立～

- プロジェクト代表者: 櫻井 孝 (国立研究開発法人国立長寿医療研究センター研究所長)
- 採択分野: 実装研究 (3年間)
- 助成額: 90,000,000円 (予定)



認知症予防プログラムの普及と実装に向けた課題

- 1) 十分な指導者の確保
- 2) プログラムの地域への適応
- 3) 入口・出口戦略の工夫
- 4) プログラム受益者 (自治体) と提供者 (事業者・インストラクター)、そして参加者 (当事者) との持続的なパートナーシップ

エビデンスに基づいた実装版認知症予防プログラムを通じて、高齢者のQOL・認知機能を向上させる。プログラムが地域コミュニティに根付くための持続可能な運営体制を構築し、地域全体の健康と福祉を改善させるとともに、認知症の社会的コストの削減を目指しています。

本事業の公募要領や提案方法については財団ホームページでご確認ください。また本事業に関する情報はメールマガジンにて順次配信します。ぜひメールマガジンにご登録ください。

- 令和7年度 (8年度助成)
- 「長生きを喜べる長寿社会 実現研究支援」公募は
- こちらからご覧になれます。⇒



- 長寿科学振興財団ホームページは
- こちらからご覧になれます。⇒

